

* 体育教師(巨根)

体育教師は短髪の男性で、体は鍛え上げられていて大きい。見た目はちょっと怖いけど、でもとても優しく、生徒からは人気がある。先生は俺と目が合うと、よく笑ってくれるが、その目元はとてもエッチで誘うようにこちらを見てくる。

体育の授業中。準備運動のストレッチで、先生が俺の尻をほぐすと言ってきた。俺は断ったが「遠慮するな」と優しく頭を撫でられて、優しく尻の穴に指を突っ込んできた。

「んっ♡」

「ちゃんと中までほぐさないと、怪我するぞ♡んっ♡
虚木のお尻は柔らかいな♡それに軽い。ちゃんと食べてるのか？」

「んひいっ♡せんせの指、ふっとい…っ♡やだ…♡」

「んっ♡静かに…ッ♡他の皆に聞こえちゃうぞ？♡いいの？俺は構わないが、お前が恥ずかしいんじゃないか？♡」

「ッ♡でもお…ッ♡んっ♡んんっ♡」

ここは体育館。他の生徒は皆、柔軟をしている。俺が一番後ろにいたが、あぐらをかいた先生の上に座らされていた。俺が声を我慢していると、先生が後ろで、荒い息を吐き出した。

「はあっはあっ。うん♡いい子だ♡声をちゃんと抑えてるな♡つらくなったら、先生の服を掴むといい。……すまない、少しだけ君を抱きしめてもいいか？」

「えっ♡あっ…♡」

先生は引き抜いた指で、お尻の穴周辺を触り始めた。初めは優しく円を描くように触っていたが、急に強くお尻の周りをつついたり、グリグリッと先っちょだけで穴付近をいじったりするので、おかしくなりそうだった。

「うっふっ♡っ♡はっ♡」

先生は無言で執拗に穴の入り口付近を指でいじってくる。

(なんで…そこばかり♡なんか中をいじられるより、お尻穴の入り口をちょちょよされる方が感じちゃうかも…♡ッ♡なにこれえ♡俺、焦らされてる？♡
変♡お尻が変になってるう♡♡♡)

穴の周辺で指をプルプルプルッ♡とこぎぎみに振るわされると、俺はビクビクッと反応してしまう。なんだこれ♡ローターとは違う感じ♡人の温度を感じるからかな♡他人の指で何度もそこだけ集中していじられると、それだけでお尻がジン♡と熱くなってしまう。

「やっ♡お尻♡もっ挿れてえ♡せんせえ♡お願い♡い♡」

「ダメだ♡まだまだ慣らさないとな♡」

「もっ♡充分慣らしたからあ♡お尻の奥、すごくズクズクする♡我慢できない…ッ♡せんせえ♡お願い♡お願い♡」

「ダメだ♡」

（ッ～♡なんでココばかり♡早くお尻の中、挿れてほしいのに…ッ♡先生、念入り過ぎい♡もっ…♡おか

「っ♡うおっ♡中あ♡あっ♡あっ♡すごっ♡中で指動いてる♡んんっ♡」

「ああ、先生は意外とこれで器用なんだぜ♡先生の指で気持ちよくなってくれよな♡」

「んん～～っ♡」

「先生の指、今どんな風になってるか分かるか？」

「んっ♡中で曲げてる…？♡中でカリカリ引っかいてる♡」

「んっ♡ここコリコリすると気持ちいいのか？♡」

「ッ♡うん♡そこっ♡そこっ♡あううっ♡ッ～～♡」

「そっか。そっか♡虚木は素直でいい子だな♡先生の指、もう一本増やしちゃうぞ♡」

「あうっ♡んああっ！♡」

先生の指が増えた。先生の中指と人差し指で奥をくりくりされて、俺はチンポから精液がダラダラ漏れるのを感じた。パンツがじわじわと熱くなってく